



時代の激流

に流されることなく、今年も地域合同労組として住民のみなさんと共に歩んでい

きましよう。地域に深く根差すためにもっと港区を知ろうとということだ。《港区探索》を連載します。

(二〇一四年三月港区役所発行の「港区たんけん手帳」他を参考)

江戸時代初めまで葦の原

港区だけでなく大阪市のほとんどはその昔、海の底。弥生時代後期から古墳時代前期、約一六〇〇年前でも陸地は大阪城

から住吉あたりまでの

「上町台地」と呼ばれるところだけ。淀川の上流から運ばれてきた土砂が長い年月かけて堆積して海岸線が移り変わり、しだいに今の港区あたりに

も沼地や小島ができていったそう。これを埋め立てたり開拓して人が住む場所になっていったのが

ずっと江戸時代中ごろのこと。江戸の初め頃は沼や葦原が広がっていただけだったとか。そういえばJR弁天町から二つ目の駅は芦原橋だが…この辺りの歴史はもっと古い。

安治川の由来

江戸時代、大阪は淀川

の氾濫による水害に悩ま

された。淀川の河口にある九条島が水の流れを堰き止めているということ

で一六八四年、島を削って新しい川をつくる大工事が行われた。淀川を「安けく治むる」と言う意味で一六九八年、安治川と名付けられたそう。

この大工事は一日一万人以上の人々が動員され、わずか二〇日間で終わっただというから、さぞ過酷な強制労働だったろうと想像される。工事で出た土砂は「波除山」と呼ばれる高さ十五mの山になった。その跡を記す碑が弁

天東公園にある。松浦診療所の近くですね。ご覧

になったことありますか？

富裕町人の名前が地名に

江戸時代の中頃、葦原だった港区の土地を田畑にする新田開発が盛んに行われたそう。富裕な町人が金を出して開発を

すすめ、新田に自分の名前がつけたという。実際に田畑を耕して作ったのは小作人なんやけど…。

で、市岡・石田・田中・八幡屋・福崎などの町名はその町人の名前だという。ずっと変な町名やなあと思ってたんやけど、そういうわけだったとは！



江戸時代はじめはこんなが生えてたんや

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！